

新たな始まり

Vol.52

親鸞聖人750回大遠忌

宗門長期振興計画の現状

『寺院活動事例集 ひろがるお寺——寺院の活性化に向けて——』

発刊について

現在、急激な人口移動や少子高齢化、核家族化といった社会の変化や、人々の宗教に対する意識の変化の中で伝道基盤が弱まり、従来通りの寺院活動の継続が難しくなっています。

そこで宗門では、親鸞聖人七百五十回大遠忌^{だいおんき}宗門長期振興計画の重点項目の一つに「寺院活性化の推進」を掲げ、さまざまな活動を展開しました。その一環と

して、二〇〇七年十二月には、地域に根ざした特色のある寺院の事例を紹介した『寺院活動事例集 お寺はかわる——新たな始まり——』を発刊しました。この事例集には大きな反響をいただき、さらなる寺院活動事例の調査と検討を行いました。その成果を『宗報』二〇〇八年七月号から二〇一〇年三月号までの隔号で「シリーズ お寺はかわる」と題し、ご紹介しました。

以上

『宗報』「シリーズ お寺はかわる」の事例、新たに二事例を加え集約したのが『寺院活動事例集 ひろがるお寺——寺院の活性化に向けて——』です。

サブタイトルに「寺院の活



寺院活動事例集 ひろがるお寺——寺院の活性化に向けて—— 表紙

性化に向けて」とあるように、本書は、実際にお寺の活動のヒントとして活用していただくことを目的に作成しました。今回は、すでに全寺院にお送りしている本書を、より有効に活用していただくためのガイドラインを紹介いたします。

1 本書のねらい

最初に、お寺の活動にはどのようなものがあるのか確認してみましよう。まず、お葬式や法事をはじめ、お盆やお彼岸^{ひがん}、月命日などに行われる門信徒宅でのお参りや、お寺の本堂で行われる報恩講^{ほうおんこう}をはじめとするさまざまな法要・儀式があげられます。さらに、お寺によっては、地域と密接に関わる活動、行政・民間企業と「協働^{きょうどう}」で行う活動、住職をはじめお寺の関係者が積極的にお寺の外で行う活動もあるでしょう。それらの活動を、「活動者」と「場所」という項目で分類すると、表1のようにまとめることができます。

表1 お寺の活動の区分

		活動者	
		寺院関係者	寺院関係者外
場所	寺院内	A	C
	寺院外	B	D

この表におけるA・B・Cが、広義の「お寺の活動」となります。

同じ本願寺派のお寺だからといって、みな同じ活動をしているとは限りません。お寺の歴史、地域との関わり、住職の思いや経験、お寺に関わる人たちなど、お寺の数だけ異なる事情や課題がありますので、活動もお寺によってさまざまです。こういった事情の異なる、課題の異なる、活動の異なるお寺が、本願寺派内で約一万三百カ寺あります。ですから寺

院活動の活性化という課題は、画一的なマニュアルを提示すればそれで解決というわけにはいきません。

そこで本書では、多様なお寺において広く参考にしてもらうために、それぞれに個性がある二十八の活動事例を紹介・考察するというスタイルを選びました。もちろん、それだけの事例が紹介されていても、「自坊でそのまま実行できる事例がない」という場合もあると思います。しかし、活動そのものを同じように実行できなくとも、活動を支える人々の考え方や関わりなど、活動の背景にある要素は多くのお寺で参考となるはずです。

2 本書の構成

本書は次の四章で構成されています。

第Ⅰ章…ひろがるお寺

(本書のガイドライン)

第Ⅱ章…事例紹介

(地区別に二十八の事例を紹介)

第Ⅲ章…考察



第11章「事例紹介」第5節「中国・四国地方の寺院活動」より抜粋（本書104～105頁）

各節の冒頭には、各地域の地図と「本願寺派寺院 基本情報」、「紹介事例」を掲載。各事例の冒頭には、所在地の示す地図と寺院名があり、事例のキーワードが一望できる。

五二・八パーセントの人が自分のお寺は過疎地域であると答えています。特に、農山漁村に位置するお寺では七六・一パーセントの方が過疎地域だと回答しています。

◆社会変動と寺院
本項では、第九回宗勢基本調査（以下、宗勢調査）の結果をもとに、過疎地・過密地のお寺の現状について考察しています。特に過疎問題は宗門にとって避けては通れない問題です。図1をご覧ください。

◆寺院の人々

◆寺院の人々
本項では、寺院活動を地域に広げ、ま

このような現状を鑑みて、当研究所では過疎地寺院の実態調査を行いました。この項では、その過疎地に生活を営むお寺の厳しい現実が紹介されています。また過密地のお寺の現状について、特に都市開教に焦点を当てて、分析しています。

第III章では「社会変動と寺院」「寺院の人々」「寺院の経済基盤」「寺院の活動」の四つのテーマから、寺院の現状を考察しています。さらに「寺院の活動」について、「伝道教化活動の工夫」と「地域との関係から」という二つの視点から分析を試みています。

3 第III章「考察」の概要

（事例や実態調査をもとに、五つの視点から考察）
第IV章：ひろがるお寺のかたち
（寺院活動の可能性についての分析）

特に第III章では、活動事例をもとに、さまざまな視点から考察を行っています。そこで次に、第III章の「考察」から本書の活用方法についてみていきましょう。

全国	52.8%	13.8%	33.4%
市街地	29.0%	26.2%	44.8%
住宅地	21.7%	26.9%	51.4%
農山漁村	76.1%	3.3%	20.6%

■ 過疎地域にある寺院 ■ 過密地域にある寺院 ■ どちらでもない

図1 過疎過密の状況（本書147頁）

た地域活動に寺院の人々がどのように溶け込んでいくか、いわば、その発想力や地域性を見極める住職・門信徒の志向性に重点を置いています。寺院運営に積極的な世代が高齢化している現状を踏まえた上で、活動の活性化について検討しています。さまざまなアイデアを活かした、マンパワーと連携することで生み出される寺院活動の活性化の分析が本項の特徴です。

◆寺院の経済基盤

本項では、宗門寺院の経済状況について、宗勢調査の結果をもとに考察を加えています。宗門寺院のおよそ六割がお寺以外の収入が必要であること、必要門徒戸数が教区によって大きく違うことなど、具体的な数字や図表をもとに紹介しています。

親鸞聖人750回大遠忌 宗門長期振興計画

【基本的な考え方（コンセプト）】

○『新たな始まり』

～明日の宗門の基盤作り～

【目標】

- 親鸞聖人750回大遠忌法要の修行
- 現代社会に応える教学・伝道態勢の構築とみ教えに生きる「人」の育成

【重点項目】

- ①法要の修行
- ②記念行事等の推進
- ③協賛行事
- ④伝道態勢の整備
- ⑤時代に即応する教学の振興
- ⑥新たな門徒の誕生（教線の拡充）
- ⑦国際伝道の推進

⑧寺院の活性化対策

- ⑨過疎・過密対策
- ⑩地域社会との交流
- ⑪現代社会への貢献
- ⑫人材育成の新規対策
- ⑬既存の人材育成施策の強化
- ⑭宗務機能の点検と拡充
- ⑮境内地等の整備

◆寺院の活動1（伝道教化活動の工夫）

本項では、法座活動の活性化について考察しています。既存のやり方が上手く機能していない場合、そこに新たな工夫が必要です。ここでは活動の工夫を、「新しいアイデア」「法座に参りやすくなる工夫」「伝統への工夫」に分類しています。活動を工夫する上では、お参りに来られる方々の意識や心持ちに気を配ることが大切です。また、そこには主催者の念仏者としての姿勢が欠かせないで

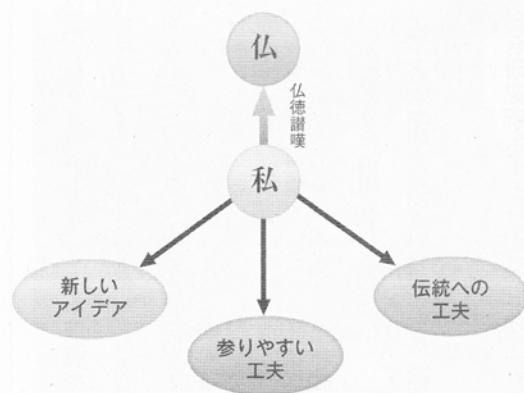


図2 法座の工夫（本書170頁）

しょう。

法座活動という浄土真宗が大切にしている活動の活性化に向けた分析がされています。

◆寺院の活動2（地域との関係から）

本項では、地域の中のお寺という視点から、お寺のポテンシャルについて再考しています。お寺といっても、地理的特性や地域の習俗の影響を受けていますし、また逆に、お寺から地域にさまざまな情報や文化を発信することができます。門信徒や地域住民との「協働」という視点から、地域に開かれたお寺、寺院が地域を変えていくような情報や話題を提供する場になりうるということが論じられています。

ご関心のある「考察」から読み進めていただきますと、各考察にはそれぞれ関連する事例番号が付されていますので、第Ⅱ章「事例紹介」の具体的な活動事例を読むことができます。またこの「考察」

では、事例紹介の誌面だけでは読み取れない活動の性格や特徴を探るヒントにもなるでしょう。

4 あるもの探し

また、本書では、「お寺の可能性」について、第四章「ひろがるお寺のかたち」で論じています。お寺にはそれぞれ独自の事情や課題がありますが、それぞれ独自の活動をひろげる可能性として捉え、お寺のもつはたらしについて分析を試みたのが本章です。

課題をネガティブに捉えるのではなく、可能性として発想の転換をしてみると、お寺を活性化させるヒントが身近に見えてくるかもしれません。

最後に、寺院活動の活性化を考える上でのキーワードを一つご紹介しましょう。それは

「あるもの探し」

です。このキーワードをみなさまのお寺にもあてはめてください。浄土真宗のみ

あなたの寺院活動 関心度チェックシート（本書8-9頁）
読者にとって関心の高い項目が確認できる

教えをはじめ、お寺を支える住職や坊主、門信徒の方々、お寺に蓄積される地域の情報など、たくさん要素があることでしょう。

これらの要素を活動の活性化にどう結びつけていくのか。そのヒントとして、ぜひ本書をご活用ください。

（浄土真宗本願寺派総合研究所研究員 那須公昭）

*総合研究所ホームページ <http://j-soken.jp>